公明こうち 市議会ニュース

発行所／高知市議会公明党
住　所／〒780-0870
高知市本町4丁目1番24号
TEL:088-823-9403
FAX:088-871-2485
2016年（平成28年）11月1日　第35号
高知市議会 KOMEITO 公明党

第457回 高知市議会定例会

市民ファーストで生命（いのち）と教育に光をあてる

伊藤（いとう） 弘幸（ひろゆき） 議員

伊藤弘幸議員は、総括方式で次のように質問をしました。

◆観光振興について

本市への外国人観光客は、今後も増加することが予想され、多言語通訳などの増員、独自の受け入れ体制、観光案内所の設置を求め、市長より今後そうした方々の利便性の向上や、おもてなしの充実を図り県や観光関連業界・商店街等の皆様と検討しながら、観光案内機能の充実を図るとの見解が示されました。

◆障害者施設の防犯対策について

今回の相模原市の殺傷事件に関し、本市における障害者福祉施設や介護施設などの対策について対応を求めました。執行部からは、「国の通知に基づき、夜間の施錠確認や外部からの進入防止策の実施、緊急時の警察消防への通報体制の構築などを各施設に周知した。さらに個別の相談に対しては、国のガイドラインに基づき、状況に応じた指導や支援を行なっていく」との答弁を得ました。

◆水道事業について

耐用年数を超えた管路の老朽化対策について質問しました。高知市上水道の管路総延長は平成27年度末では約1500㎞で40年を超えたものは約470㎞。その更新にかかる総事費の試算は約570億円であり、工事期間は40年程度が見込まれているとの答弁がありました。さらに本市では平成25年度に策定した「高知市水道事業アセットマネジメント推進計画」で、平準化に努め管路の健全度が維持できるとの考え方が示されました。

大久保（おおくぼ） 尊司（たかし） 議員

大久保尊司議員は、一問一答方式で教育関連の質問を行いました。

◆平成28年度子ども模擬議会について

問　高知市の未来について語り合うことを目的に、高知市議会の本会場において、高知市内の中学生による子ども模擬議会が13年ぶりに開催されましたが、市長の率直な感想を伺います。

答　この議会の質問の中に、高知市が重点的に取り組んでいる南海トラフ地震対策や高齢者対策、中学生らしい視点で学校生活の中で気が付いたことなど、多岐にわたる質問・提言を頂き新しい気付きもありましたので、その実現に向けた協議や計画を進めていきたいと考えています。

◆高知市のキャリア教育について

問　若い世代の社会的・職業的自立を目指す、キャリア教育の重要性について市長の所見を伺います。

答　望ましい勤労観や職業観を育むための職業体験学習やインターンシップの実施は、キャリア教育の重要な部分であるとともに、地元企業で仕事を体験することによって地元に就職し活躍する人材の育成にもつながると考えており、関連する庁内部署と連携し、地域の企業等の協力を頂きながら、円滑な実施を図って参ります。

◆子どもの貧困対策について

本市においての子どもの貧困について市長の所見を伺い、市長からは「子どもの未来を保障していくことは、大人や社会の責任であり、全面的に支えていく。国・県と連携し、更なる充実を図ってまいりたい」との答弁を得ました。

西森（にしもり） 美和（みわ） 議員

◆福井・初月地区の浸水対策について

住民の皆様と実施した被害の実態調査や意見交換をふまえて、県・市の浸水対策調整会議の最大の課題である福井・初月地区の浸水対策について、実効性のある対策を提言しました。

※議会に提出された請願は全会一致で採択

① 紅水川以北の対策（南万々・中万々・南久万・福井町・福井扇町等）

県が管理する北の久万川と、南の紅水川から溢れた水が「万々商店街」を中心に、広範囲の浸水を引き起こした実態をふまえ、紅水川の石神橋からの越流を防ぐ抜本的な対策を県に要請すべきであるとした上で、市の課題である初月ポンプ場への内水排除の課題を指摘しました。執行部から「内水シミュレーションを行い検証する」との答弁を得たため、まずは被害の実態と乖離（かい）がないよう住民の皆様との意見交換ができる場を設定するよう求めました。

② 紅水川以南の対策（南万々・福井東町）

すでに整備された下水道は時間雨量66ミリ対応であり、南万々排水機場との総合的な排水計画の必要性を訴え、本年から事業が開始したシキボウ跡地の対策と同様、公共下水道事業に位置づけた検討を要請しました。また排水機場の放流先である石神橋の上流の容量不足について市長の見解を問い「県と具体的な対策を検討する」旨の答弁がありました。「このエリアでも内水シミュレーションを実施する」との答弁をうけて、県が国分川水系の河川整備計画を見直すこの時に、解決への道筋をつけるよう市長に強く求めました。（市議会のHPで録画を配信中）

寺内（てらうち） 憲資（のりよし） 議員

寺内憲資議員は、一問一答方式により質問を行ない、次のとおり事業計画の見直しを市長に求めました。

◆長期浸水対策事業

平成28年度一般会計補正予算には、長期浸水事業300万円が計上されています。この予算は、スマートフォンを活用したシステム「スマホdeリレー」の導入経費の一部で、今後、システム導入費として3千万円強を見込んでいます。

この事業計画は、平成28年度から3年間、浸水区域の高知市内において実証実験を行い、結果が有効であれば本格運用となる事業です。

「スマホdeリレー」とは、災害時に通信障害等への対応として、スマホを利用して端末間ネットワークを作成する技術で、スマホに専用アプリをインストールすることにより近隣のスマホと自動的に通信する機能を被災者と災害対応者間の伝達・情報提供手段として活用するものです。高知市として、システム導入の検討をするに際し、スマホ間の通信距離は短く、機種や周辺環境の影響を受けることから、システムを十分検証する必要があります。

ところが事業計画は、システム導入前提予算となっており、実証実験の結果が悪く、使用できないことが判明しても、実験費用の全額を高知市が支払うこととなっていること。さらに、実験で得られたデータは、業者にとって今後の営業に使える貴重なデータであることから、高知市に実験経費の負担が発生しない事業計画に見直すべきであると市長に迫りました。

（詳細はホームページ参照）

高木（たかぎ） 妙（たえ） 議員

◆下知ポンプ場の更新について

旧市街地整備基準でしかない下知地域の抜本的な雨水対策について、ポンプ場用地の確保が出来た事による建設スケジュールをただしました。執行部からは「2020年度までを目途に事業着手に取り組む」との答弁がありました。

◆動物愛護に関する取り組みをただす

私はこれまで、人と動物の共生する社会の実現を願い、「動物の愛護及び管理に関する法律」に則った動物愛護行政について度々質問を行いました。今議会では保護動物の殺処分を無くする取り組みの推進について、高知県を取り巻く現状を直視し現状の課題解決とセンター設置に伴う事柄、地域猫の取り組みと災害時のペット避難等について14問の質問を行いました。

＊殺処分を行わないためには

① 飼い主が無責任な飼育放棄をやめる事。
② ペット業界による過剰な繁殖をやめる事。
③ 犬猫の繁殖抑制を行う事。など

行政に持ち込まれる頭数の削減と保護動物の適正な譲渡の仕組みについて求めました。

＊災害時のペット同行避難について

① ペットは飼い主と同行避難する。
② 避難所では、ペット同伴避難はできない。
③ 避難所運営では専用スペースを確保する。
④ 飼い主は日頃のしつけや、持ち物等の準備が重要である。

＊（仮）動物愛護センターの設置について

① 高知市内に建設する事。
② 早期に検討委員会を立ち上げ、建設着手を急ぐ事。

など提案しました。

（詳細は高木妙 検索）

「高知市いきいき健康チャレンジ2016」が開始されました

市では脳卒中や心筋梗塞などで亡くなる働き盛りの年代の方が多いという現状から、皆さんの生活習慣病予防や健康づくりを応援する「いきいき健康チャレンジ2016」をスタートしました。

チャレンジ目標は

① 毎日体重を測る
② 毎日血圧を測る
③ 禁煙をする
④ 1日8,000歩以上歩く
⑤ 週に連続2日以上休肝日をつくる

さあ、皆さんもこの中から一つだけでもチャレンジしてみましょう!!

中山間地の防災力向上へ臨時ヘリポートを整備
＝高知市議会公明党が推進＝

高知市議会公明党では、高知市の災害発生時に孤立化する恐れのある中山間地で防災力を向上させる取り組みのため、ヘリポートの整備を毎年の予算要望をはじめ、機会あるごとに進めてきました。そして、今年2月には、救助活動や物資搬送で切り札となるヘリコプターが離着陸できる専用施設の臨時ヘリポートが土佐山地区に完成しました。完成した臨時ヘリポートは、市で初めての場外離着陸専用施設で、17メートル四方のスペースが確保されています。

先日、会派で現地視察を行い、担当所管から説明を受けるとともに、災害発生時などに限り離着陸が可能となる緊急時離着陸場や救命救急時のランデブーポイント（ドクターヘリと救急車の合流地点）の整備など、現状と今後の課題について意見交換を行いました。

太陽

国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）が運用する世界最大の地球深部探査船「ちきゅう」が、9月10日から2ヶ月間に渡って高知県室戸沖の南海トラフの沈み込み先端部で、海底基盤岩へ深さ1200m掘削し、化学的調査を行なった。「ちきゅう」はこれまでに南海トラフだけでなく、東北沖・下北半島・八戸沖・沖縄トラフといった海域で科学掘削を実施。巨大地震・津波の発生メカニズムの解明などの調査をしている。

私たちは今後必ず起きると言われる南海トラフ地震に対し、「速やかに避難場所へ移動するための経路の確認」「危険個所の把握」「自宅の耐震補強また転倒防止対策」等々、自らできる地震対策や防災対策に取り組むことが強く求められている。また地域で助け合う自主防災組織の結成や運営などを再度確認していきたい。何より、転ばぬ先の杖、備えあれば憂いなしである。

（幸）